

米國紀行...③

岡 雅司
(オク
谷・市 H
クラブ 長)



運転免許 五ドルで取れた

私の場合は一人でアメリカ人家庭に入り、ここから大学に通った。家族は四人だったが、ちょうど私が世話になっているときに三人目の男の子が誕生し、五人家族となつて、いいかげんにぎやかだったのが、また一段とにぎやかになつた。

子供の無邪気さはどこに行つても同じように感じた。おもしろいことに、ここでは生まれたばかりの赤ん坊を子供部屋のベッドに一人で寝かしていた。生まれたときから独立ということを教える育てるさうである。それと同時に「人に頼らず」「人に迷惑をかけず」ということを教会、宗教を通じ身に着けさせる。

また、休日には家族とともに、山に海にキャンプに行つた。ほんとうにアメリカでは家族単位あるいは夫婦単位での行動が多いように思えた。そしてまた、子供が進んで親の手伝いをするのに感心させられた。

一方、大学では農業全般を米國中心に学び、米國農業について多くの知識を得た。あつと言う間に三ヶ月が過ぎ、世話になった人たち、またカリフォルニアの霧がかかったようなすつきりとした空とも別れ、再び暑い真つ青な空に大きな太陽の光がかんかん降り注ぐアリゾナでの仕事、自炊の生活に戻つた。

ちょうどこのとき車の免許証を

取得した。たいへん簡単なもので、一枚のペーパーテストと自分で持ち込みの車による縦列駐車と四百メートルの所を一周し、なんと五ドルで取得できた。また、道をも満足に歩けない老人が前方だけに視点を向け、制限速度八十マイルの道路を走っている社会であり、私たちの農場主もその一人だった。広大な土地の中に幅広いまつすぐな道路が敷かれており、車が生活必需品として利用されている米國ならではのことであろう。

アメリカ人というのは馬に乗ること、車等でのけん引、機械の修理が非常に上手である。幼いころから馬に乗り、また夫婦、家族で馬に乗り散歩している光景をよく見かけた。私も一度二時間も乗つたが、なかなか思う方向へ走つてくれず、馬の走るリズムに合わず、明くる朝、尻が赤くはれた。

米國農場に限らず、その他においても車・トラクター等のけん引は絶対必須のものだ。最初のころは何回やっても思うようにバックできなかったが、慣れというもののは恐ろしいもので、幾日も練習していると自然にできるようになる。また、大型機械農業である米國では、機械をいかに大事に長く使用するかが非常に重要だ。ほとんど自分の農場内で修理し、時には必要に応じて機械を自ら作り出すの

には感心させられた。暑さが和らぎ過ぎず、しやすい時期になると、スノーボードといわれる寒さしのぎの老人が全米、特に北の州からこの暖かな南の州のアリゾナにキャンピングカーなどで訪れ、日ざしの強くなり始める四月、五月ごろまで滞在することとなる中には、この地に家を構え長期滞在する者もいる。この時期には町の人口が一・五倍以上に膨れ上がり、それと同時にフルーツスタンドがオープンし、オレンジなどの収穫が始まる。

マス用オレンジ類の宅配時期である。クリスマスは皆さんもご存じの通りイエス・キリストの誕生を祝う日だ。宗教心の強いこの國では日本とは反対に正月以上にぎやかで、各家庭の窓や屋根の周りには色とりどりの電球が点滅する。また、屋内にはクリスマスツリーが飾られ、ツリーの下には山のようプレゼントが積まれている。この州では十年前に一度少しの雪が降つたと聞いたが、それ以降は全く見ることなく、ホワイトクリスマスは味わうことのできないこの地の人々である。



自動車は生活必需品。広大な土地に幅広いまつすぐな道路がどこまでも続いている(メサ市郊外で)

(つづく)